

非常災害対応マニュアル

ナーシングデイやすらぎ



第6章 防災（地震・火災）に関する事

1.火災に備える

電気設備（電灯、コンセント（タップ含む）、電気ストーブ、アイロン、漏電）

- ・可燃性のある物を付近に放置していないか（白熱灯 アイロン ストーブ）
- ・コンセントは根元までさしてあるか（抜けかけたコンセントに埃が溜まり引火）
- ・電気使用量を超えた、たこ足配線をしていないか
- ・コードは熱を帯びていないか
- ・電気コードの破損箇所はないか（破損部からスパークして引火）
- ・電気コードを棚などで踏んではいけないか

2.震災に備える

①注意すべき点

- ・棚や TV、冷蔵庫等大型の倒れやすい物は固定しているか
- ・食器棚等は揺れにより扉が開き食器が飛び出さないように工夫しているか
- ・照明器具や掲示物（額等）落ちてこないように工夫しているか
- ・窓ガラスやガラス棚のガラスが割れないように工夫しているか
- ・特に蛍光灯（LED は除く）が落下した時の為に、飛散防止カバーをしているか
- ・棚の上に重たいものを載せていないか（揺れにより落下しないか）
- ・避難通路に不要な荷物等が置かれていないか
- ・避難持ち出し袋は用意しているか（中身を吟味して、あまり重くならないように）

3 避難訓練

1.火災、地震発生時の避難誘導マニュアルの作成、周知、検証

2.自衛消防組織の作成（防火管理者の配置⇒指定の講習を受けなければなりません）

3.緊急連絡網の作成（避難持ち出し袋に常備しておきましょう）

4.消防通報手段の作成（固定電話設置場所付近に掲示しましょう）

5.震災に伴う津波警報が発生した場合の避難場所の決定とルートの確認（建物倒壊などでルート遮断される事も踏まえ、複数ルートの確認）（近隣につな美避難ビルがあるか確認）

6.月 1 回の自主避難訓練の実施（記録の作成）

7.第 1 次避難場所及び広域避難場所までの定期的な誘導訓練（記録の作成）

8.年 1 回の消防署立合の避難訓練及び、年 1 回の通報訓練の実施（消防署へ届が必要）

9.消防署立合訓練時に、水消火器で消火の練習を行う（届時に申し込む）

※車両での移動は 2 次災害の恐れがあるので、極力徒歩ルートを検討しましょう。

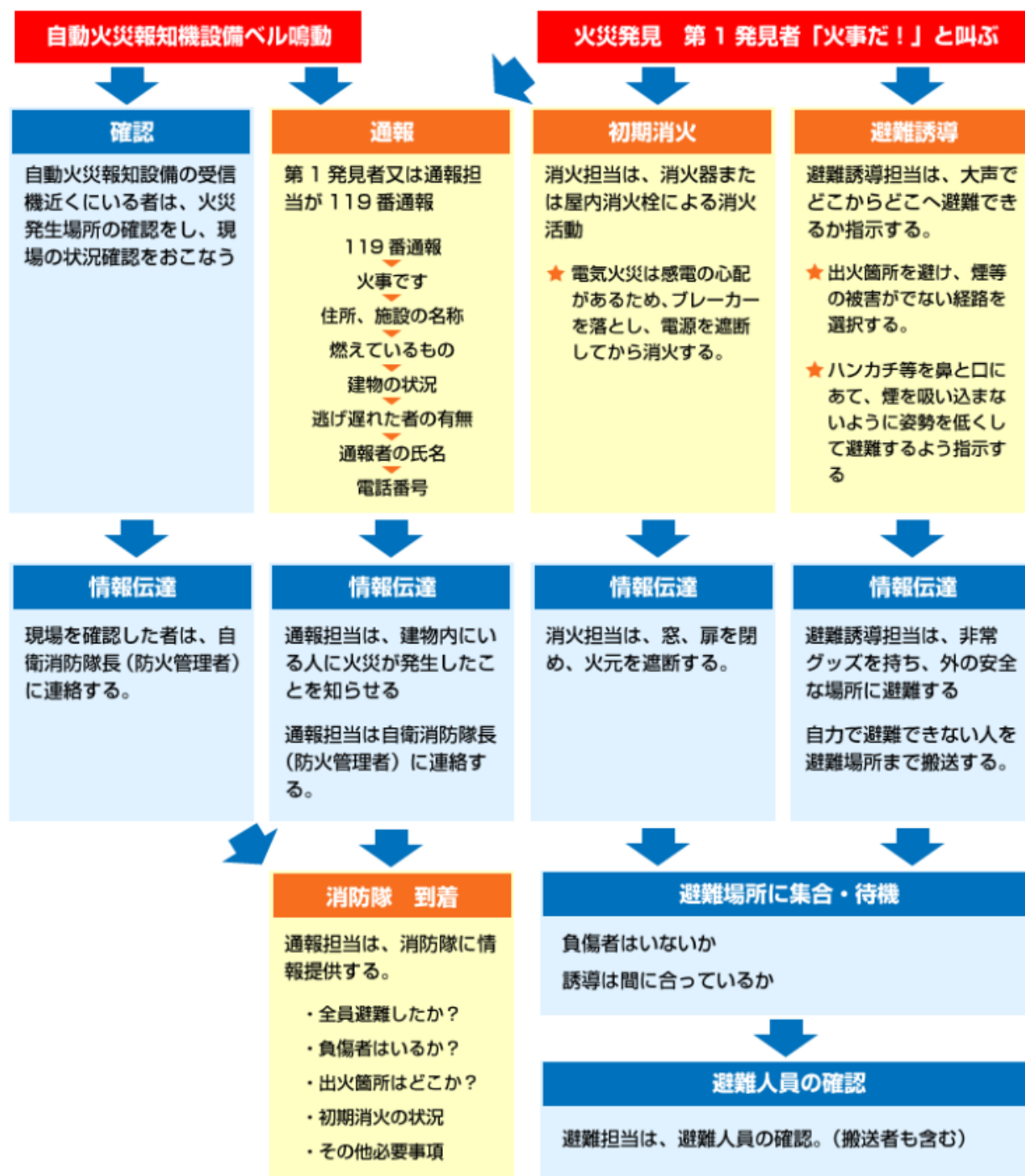
※車両をやむを得ず使用する際は、リスクが大きい事を踏まえて走行する事。

4.消防設備点検

半年に 1 回の設備点検（消火器、誘導灯、その他施設規模によって内容は変わります）点検記録は消防署への届が必要となりますので、設備業者へ依頼します

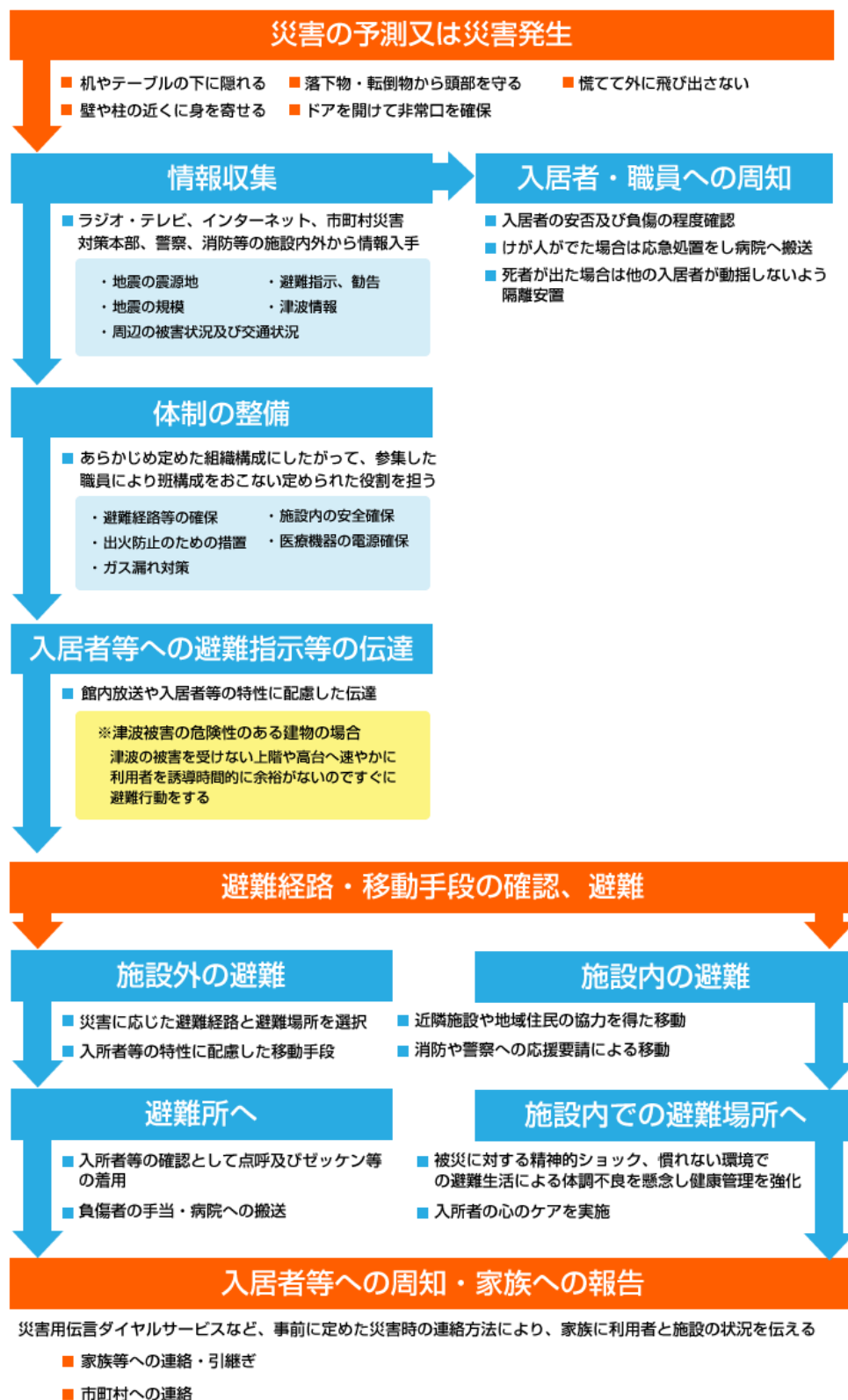
5.火災が発生した時の対応（基本対応）

火事後の行動手順表



6.地震が発生した時の対応（基本対応）

地震発生後の行動手順



ナースングデイやすらぎ 避難訓練年間計画

持ち物

・防災バック（・緊急連絡網・救急セット・おむつ・毛布・備品等）確認

月	内容	
4	避難訓練 (地震)	・直下型地震(M7.3)を想定。揺れを感知後、速やかに机の下へ避難。 防災頭巾をかぶり屋外へ避難、点呼。その後広域避難所まで避難。
5	避難訓練 (不審者)	・正面入口より不審者の侵入を想定。子どもの安全確保と、さすまた・カラーボールでの対応。関係各所へ緊急連絡。
6	避難訓練 (火災)	・キッチンからの出火を想定。子どもの安全確保と避難誘導。 自営消防組織図による担当任務の再確認。
7	避難訓練 (地震・火災)	・療育中に非常に大きな揺れ、同時の火災、子どもの安全確保と共に避難経路の確認。
8	避難訓練 (地震)	・近隣地域で大型地震(M6.5)発生を想定。速やかに机の下へ避難。 防災頭巾をかぶり屋外へ避難、点呼。その後広域避難所まで避難。
9	避難訓練 (台風・大雨)	・急な気象変化の対応・大雨、大雨の強さを想定させ、保育者の指示を守り、お迎えを待つよう話をする。送迎は中止、体温の確認。 ・保護者へ緊急連絡網での連絡・懐中電灯の確認。
10	避難訓練 (水害・土砂災害)	・大和川河川氾濫を想定しての避難訓練。3. 3m以上の津波発生。 避難経路の確認・避難場所の確認・電話連絡簿の確認。
11	避難訓練 (不審者)	・近隣で不審者通報を受信した事を想定。子どもの安全確保と戸締りの再確認。関係各所との連携。
12	避難訓練 (地震・火災)	・療育中に非常に大きな揺れ、同時の火災、子どもの安全確保と共に避難経路の確認。
1	避難訓練 (地震)	・地震の話をし、1か所に集まる事を説明し、職員から離れない事を伝える。 ・合図のある迄、じっと待つ。(頭巾の準備確認)
2	避難訓練 (地震)	・南海トラフ地震(M8.2)を想定。揺れを感知後、速やかに机の下へ避難。 2次災害の恐れがある為、防災頭巾を着用後待機し情報収集に努める。
3	避難訓練 (火災)	・事務室から出火の想定。 非常ベルの合図で、避難路確保、消火作業せず避難する(毛布の準備)
※子ども達への指導内容 7月・・・プール遊びについての注意事項 8, 9月・・・台風シーズンの諸注意(水場には近寄らない) 11月・・・家庭において、暖房器具には勝手に触らないよう注意する		